

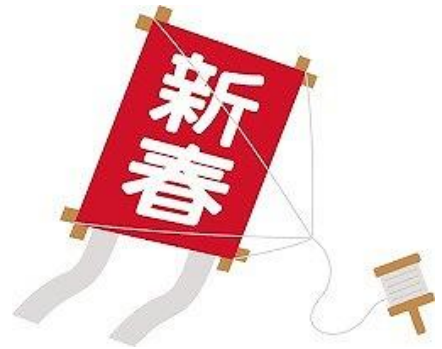
# 公園の風景

## = 公園のお正月 =

2018年1月1日、公園は人影もなく静かに新年を迎えました。

例年、公園は1月2・3日に特別開園日を設けています。2日の朝、今年も開園を待っていたかのように入館者がありました。公園の自然の中で、新しい年に向かい何を思い何を願われたのでしょうか。皆さん清々しい顔をされていました。特別開園日には午前午後の2回バードウォッチングが行われ、工作教室では木片を使って今年の干支である戌の置物作り、「可愛く出来た！」と笑顔がいっぱいでした。

2・3日の2日間で200余名の入館者があり、冬季限定の自然観察に満足の様子でした。公園にとっても戌年だけに「ワンダフルな初春」となりました。



## = トリたちは元気 =



寒さの厳しい中、トリたちは餌を探して元気に活動している。ヨシ原の周辺で耳を澄ますとヨシの茎の皮を剥ぐ音がしきりに聞こえる。小鳥たちが茎の中に潜むムシを食べているのだろう。目をこらすとヨシ原の中でオオジュリンやツリスガウなどが飛び交い、来るべき繁殖期に備えて体力作りに忙しいそうだ。園内には種々の木の実が稔りトリたちを誘っており、メジロやアトリなどが好みの採餌に専念。

淡水池には数種のカモ類に混じって人気のミコアイサも見られ、ヨシの茂みに隠れるように、地味な羽色で目立ちにくいサンカノゴイが昼間から水中の小魚を探していたり、ズグロカモメの大群が干潟の杭に並んでいたりする。この時期、公園は元気なトリたちで賑わっている。

## = ミサゴの人工巣台 =

公園の東側に設置されているミサゴのための人工巣台は、史上最強の寒波が出張ったり消えたりする中、相変わらず無表情に佇んでいる。「繁殖期には営巣してくれるのでは……」とのレンジャーの言葉を楽しみに待つこと10カ月。とうとう年があらたまった。

こうなれば、待ち望む繁殖の季節まであと僅か。春よ早く来い、そしてミサゴがめでたく人工巣台に営巣してくれますように。